

宣

言

我々の故郷である択捉島、国後島、色丹島及び歯舞群島は、父祖伝来の地として受け継いできた我が国固有の領土である。

我々元島民は、ソ連の不法占拠によって、生まれ育った島々を強制的に追われた。以来、再び故郷に帰ることを一心に願い、北方領土返還要求運動に取り組んできた。

我々は、未だに自由に故郷を訪れることができない。この間、既に一万人以上が他界し、生存している者も平均年齢が八十三歳を超えている。領土問題の解決にこれ以上の歳月を費やすことは許されない。

一昨年末、ロシア大統領が来日し首脳会談が開催され、領土問題の解決に向けた期待が高まったが、その具体的な道筋などが示されることはなかった。

政府においては、北方四島における共同経済活動の実施などを通じて相互の信頼関係を強化するなど「新しいアプローチ」に基づき、ロシアとの交渉を進めることにより、四島の帰属の問題を解決し、平和条約の締結を目指すこととしている。

我々は、政府に対し、一刻も早い領土問題の解決と平和条約の締結に向け、具体的かつ実質的な成果が見える外交交渉を加速させることを強く求める。

本年、千島連盟は創立六十周年の節目を迎える。これを機に決意を新たにし、元島民及び後継者の総意をもって、北方四島の早期一括返還の実現を求め、今後とも、一丸となって北方領土返還要求運動に邁進することを誓い、右宣言する。

平成三十年五月二十七日